

グローバルIT人材育成で成長するトレノケート台湾

トレノケートはITスキルトレーニングプログラムを始め、ビジネスで必要とされる各種スキルの研修プログラムを提供するIT人材育成分野におけるアジアでトップクラスの企業である。台湾では、大手ITベンダーによるクラウドサービスなどのトレーニングプログラムを、主にIT企業向けの研修として行うビジネスを展開している。今回は、トレノケートが台湾で展開している事業内容や今後の展望について、早津董事長を訪ねお話を伺った。



総経理のElsa Yu氏(左)と董事長の早津昌夫氏(右)

—台湾で事業を始めた経緯

当社はもともと当時のDigital Equipment Corporation(現HP社)の教育部門が、全世界でグローバルナレッジネットワークを社名として外部向けにもIT教育プログラムの提供を始めたことが源流となっており、その後日本はグローバルナレッジネットワーク株式会社として独立しました。その後、社名を2017年にトレノケート株式会社に変更しております。IT企業の教育部門を前身とすることから、ITエンジニア向けの専門知識の教育や人材育成に強みがあります。2012年にグローバルナレッジのアジア各国をグループ化し、ビジネス範囲を東南アジアやインドにまで拡げました。さらに、香港のKORNERSTONE、アメリカのTLG LearningといったIT人材育成企業との業務資本提携も行いつつ、昨年2018年に11カ国目の拠点として台湾で現地法人を設立しました。

台湾拠点設立にあたっては、事前の現地リサーチを経て、台湾企業との提携ではなく、自ら現地法人を設立する形での進出を決めました。

当社は台湾のみならず全ての海外拠点で、現地スタッフを中心に運営しています。台湾でも総経理と営業の二名のスタッフとともに台湾人を配置し、地元へ根ざした活動ができる体制をとっています。

—事業内容について

日本ではITの入門から高度な専門知識やベンダートレーニング、またヒューマンスキルやエグゼクティブ向けのビジネストレーニングなど幅広いトレーニングメニューを提供しています。台湾では組み込み開発の競争が激しく、さらに台湾ローカルのIT教育サービス企業もあるなかで、ITスキル習得の需要が今後さらに多様化しながら増加すると考えており、現在クラウド分野のコースを中心にプログラムを展開しています。通常ベンダートレーニングを実施するための契約締結には時間がかかるものなのですが、当社はアジア各国で既に実績があるということもあり、Google Cloud Platform(GCP)は短期間での立上げに成功し、台湾でも既にトレーニングプログラムを提供しています。Amazon Web Service(AWS)のトレーニングも近日中に契約完了予定で、さらにCiscoのベンダートレーニングも開講しています。当面はこれらのトレーニングメニューを軸に、今後も台湾での需要動向を見ながらラインナップをさらに強化していく予定です。

通常ベンダートのトレーニングプログラムは、国や地域ごとに分かれて展開されていることが多いのですが、そうすると、国や地域をまたいで拠点をもつ企業様は各国の拠点ごとに受講契約をすることになります。ベンダートのトレーニングプログラムを国ご

日本企業から見た台湾

とに個別契約する場合、手続きに多くの工数が必要となりますが、当社を利用すれば、例えば日本企業のお客様が各国拠点でトレーニング受講契約をされる場合に、日本の本社側でまとめて契約することで、各拠点でもトレーニング受講が可能になるといったメリットがあります。台湾拠点を設立した背景には、このワンストップサービスのメニューのひとつとして台湾を新たにカバーする目的もありました。

トレーニング内容についても事前にはリサーチを実施しており、リサーチ結果の情報を元に、台湾人の受講生がしっかりスキルを学べるよう、中国語で指導できる講師をパートナーとして迎えています。現在の顧客はベンダーのパートナーやユーザー企業などがメインですが、新規顧客の獲得にも積極的にとりくんでいます。対象としては、台湾企業はもちろん、台湾に進出している日本企業を新規顧客として獲得できるよう日々リサーチしているところです。

また、ベンダーのトレーニングプログラムは基本的に資格取得を前提に受講されるものですので、当社の台湾オフィスに資格試験受験用のスペースを併設しています。資格試験受験を当社で受けることができるよう、必要な機材や環境を完備しており、資格試験用に提供しています。

—今後の展望について

台湾は近年、IT人材を多数輩出しているところである一方、伝統的にハードウェア産業も盛んなところでもあるため、土地柄比率としてはハードウェア寄りの技術者がまだ多い状況です。ただ、将来的にはコスト競争が激しいハードウェア産業で今以上の付加価値上昇は難しいと考え、ハードウェア業界からソフトウェアに転向する台湾のエンジニアが増えているという流れも感じています。今後も需要増加が確実なものとするソフトウェア人材育成を台湾で進めていくことで、台湾産業の活性化にも貢献していきたいと考えています。

—ありがとうございました

創能資訊有限公司の基本データ

会社名	創能資訊有限公司 (TRAINOCATE TAIWAN CO., LTD.) (トレノケート台湾)
代表 董事長	早津 昌夫
資本金	2018年
設立	8,500,000 (NTD)
事業内容	人材育成事業

注) 2019年6月の情報による
出所) 公開資料及びヒアリングよりNRI整理